

周術期口腔衛生指導について
 (麻酔管理を受ける方へ、口の中がどうして重要か)
 説明書 (28-001)

口の中には1000億個から1兆個もの細菌が存在するといわれています。通常に生活している方でも体調により唾液の分泌などが減少し、細菌の数が増えてくることがあります。また、口の中は体で最も細菌が多い場所とされています。

全身麻酔では、患者さんは意識がない状態となり、自分で呼吸をすることもできません。そのため口からチューブを気管まで挿入し人工的に呼吸をしていただく状態となります。このチューブを口から入れる際に口の中の細菌が気管に押し込まれます。

本来生体には生理的な反射(咳き込み、むせること)により、気管や肺には細菌が入らないように防御する機構があります。しかし、前述したように全身麻酔下では患者さんは意識がありませんので反射もありません。したがって、口の中が汚れていれば、チューブにより多くの細菌が気管に押し込まれ、術後の全身状態の悪化、発熱の遷延や創部の治癒不全などを誘発することが報告されています。口の中の状態を清潔に保つことが術後の創部治癒期間や、入院期間の減少などに役立ちます。

全身麻酔を受ける方は、現在行っている口腔清掃方法に加えて周術期外来での口腔衛生指導を受けていただき、ご教示するブラッシング方法や口腔保湿に留意していただくことが非常に重要です。

全身麻酔ではない手術(腰の麻酔などの局所麻酔)においても口腔内の環境が創部の治癒期間を左右することが報告されています。これは、口腔内の細菌が一定以上に増えすぎていると手術創部の治癒を遅らせてしまうからです。これらより、手術を受けられる方は、通常よりも口腔内を清潔に保つことが重要となります。

術後、手術部位、手術方法や全身状態によっては、口腔からの栄養摂取が一定期間出来ないことがあります。このような場合、唾液の分泌が減少するため、たとえ食事等をとっていなくても口腔内の環境は著しく悪化します。言い換えれば、我々の体は、唾液に含まれているタンパク質や酵素により、全身の中で最も細菌が多い口腔内の劣悪な環境を改善、維持しているのです。歯の本数や歯の有無、虫歯や歯周病の有無にかかわらず(これらの病態があればなおさらですが)手術前後の口腔内の環境を整えていくことはとても重要なことです。現在、口腔内に症状がない方も環境が変化する(手術当日は禁食)ことを踏まえて口腔衛生に対処していただき術後の早期回復を目指しましょう。

口腔内の環境を術前、術中、術後において普段より良好な状態に保つことをお手伝いさせていただくのが周術期口腔衛生指導です。

年 月 日

以上の説明を受け承しました。

患者氏名 _____ 印

住 所 _____

親族または理解補助者(親権者・父母・配偶者・兄弟姉妹・保護義務者・法定代理人・等)

(患者が未成年である場合は必須)

氏 名 _____ 印(続柄 _____)

住 所 _____

診療科 _____

説明者(職種) _____

印